

発展問題

■ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あるモノをみんなが欲しがるとすれば、当然ここに競争が発生するし、場合によっては闘争も発生するだろう。だれもがその対象を手に入れることができるわけではないからである。

その結果、欲望の充足は、ただ個人の満足というようなことではなく、重要な社会的効果をもってくる。欲望の充足は、同時に、社会的な優越の印となってくるだろう。ただ、距離を^aコクフクして対象を手に入れるだけだったはずのことが、いまやただそれだけのことではなくなってしまふ。欲望の充足は、また社会的優越と^甲なのであり、實際上、欲望は、純粹に対象に向けられたものというより、こうした仲間の間での優位をめぐる競争と切り離せなくなる。

考えてみれば、それもまた当然のことだ。なぜなら、そもそも「欲望」は、あらかじめ格別に根拠があるわけではなく、「みんなが欲しがるから自分も欲しくなる」という構造をもっているからだ。

① こうした議論が「欲望の発生のメカニズム」を適切に説明したものとかがどうかというと、多少ころもとない。しかし、簡単ではあるが、これはひとつの見方であり、これだけからでもいくつかのことが^bキケツする。

^A 欲望は、本質的に社会的な性格をもったものだという事。そして、その社会的性格というのは、まずは、他人に対する社会的な優位ということにかかわっているということだ。

^c 社会的な優位はもちろんいろいろなかたちで発揮される。家柄のようなセシユウ的地位であったり、能力による優越であったり、力による^d纂奪

であったりする。そしてそれに応じて、尊敬の的にもなれば、^e嫉妬や敵意の的にもなる。しかし、いずれにしても、欲望の充足はこうした社会心理と^乙なのである。

^B 重要なことはこういうことだ。欲望がこのように社会的性格をもたざるを得ないとするならば、欲望の対象であるモノの方も、社会的性格を帯びざるを得ないということだ。マルクスはモノには使用価値があるといひ、近代の経済学者はモノには効用があるといひた。いずれにしても、そこで想定されているのは、モノの使用価値や効用価値は、そのモノを消費する個人にとつてのものだという事である。

だが、欲望がこのように社会的性格をしているとすれば、その対象の「価値」もやはり社会的な性格を帯びてくる。かつて経済学者のボールディングは、モノには「物的特性」と「イメージ特性」があると示した。この場合、「物的特性」は、そのモノのもっている機能上の、あるいは素材上の特性である。これに対して「イメージ特性」は社会的に共有されるそのモノのイメージだ。いうまでもなく、ここで強調したいのは、ボールディングのいう「イメージ特性」であり、社会的なイメージが付与する価値なのである。

こうしたことは、ことさら例をもち出すまでもなく、現代のわれわれにはわかりやすいことだろう。衣服ひとつとつても、その機能的、素材的価値のほか、デザインやファッション性といったイメージがあり、これは高度に社会的なものだ。現代では、このイメージが衣服の価値を決めるうえで決定的になっているのだが、それはなにも現代社会の特殊事情というわけではない。^②モノの価値の本質にかかわることなのである。

^C 次のようなこともいえる。欲望が、それを容易には獲得できないという「距離」によって条件づけられているとすれば、欲望はますます、手に

はいりにくいものに向かうだろう。だからそれは、日常のものより非日常的なものに向かうだろうし、めずらしいもの、得がたいもの、新奇なものへとたえず向かうだろう。

したがって、ここでいう「欲望」と「必要」は区別しておいた方がよい。日常の衣食住に必要なものは、なければならぬが、ここでいう欲望の対象としてはあまり強力なものではない。だが、たとえば「衣服」が、単なる衣服ではなく独特なデザインや得がたい素材と結びついたとき、それはまぎれもなく「欲望」をかきたてる。

欲望がたえず「距離」によって生みだされるとき、それは常にそのフロンティアを求めてゆくものとなる。どんなに欲しいものでも、いったんそれが手にはいり、それに慣らされてしまうと、もはや欲望をかきたてなくなる。欲望はたえず新しいもの、刺激に富んだもの、未開拓なものを求めるもの。こうしてそれは無限に拡張してゆく。欲望は無限に拡張し、フロンティアを広げてゆく運動にほかならないのである。

経済学には「限界効用」という概念がある。たとえばウイスキーをいま三杯飲んだとしよう。このとき得ている満足の全体が「効用」である。そこで、追加してもう一杯飲んだことよって得られる満足の増加が「限界効用」と呼ばれるものだ。経済学者は、「効用」ではなく「限界効用」の方が、モノの価値を決定するうえではるかに重要だと考えた。

③ いま、この考えにアナロジーさせていえば、ここでいう「欲望」は、この「限界」概念なのである。それは、新たな種類のモノが付け加えられることによって改めてかきたてられるものだ。だから欲望はすでに日常生活の中に根を下ろしたものに向かうのではなく、たえず新奇なもの、非日常的なものに向かう。欲望の運動はたえずそのフロンティアを開拓しようとする。

④ そうすると、われわれは、実は、何かあるモノそのものを求めているのかどうかもあやしくなってくる。本当は、人はモノを通してその背後にある何かを求めているのではないだろうか。モノはいつもモノではない何かを象徴する。それは神秘的なもの、神的なもの、異界にあるもの、未知なものを象徴する。

たとえば、中世のヨーロッパ人にとっては、時計は神の作った秩序の規則正しさを象徴した。近代ヨーロッパ人にとっては、お茶は東洋文化の象徴であった。一方、明治時代の日本人にとっては、洋服やネクタイは、まさに西洋文明の象徴であった。戦後すぐの日本人にとって、チョコレートはアメリカ的ゆたかさを象徴するものだった。団塊の世代にとっては、ジーンズは自由な生活を象徴するものであった。

モノはそのモノ自体をこえ、さらに個人をこえた何かを暗示したりシンボライズするからこそ、欲望の対象となるのである。人間は常に意味を求め、観念を生みだす動物である。人はほんのちよつとしたモノの中にさえ意味や観念をみなければ気がすまないのだ。

人はいつも神秘的なものや、未知なものにひかれる。だからこそ科学ができ、芸術ができ、技術を生み出したのである。神秘的なものや未知のものは、人間とその「何か」の間に埋めることのできない「距離」を作りだす。だから人はそれを手にいれようと欲するのだ。人を、神秘的なもの、未知なものへと架橋するのは観念であり、イメージである。それゆえ、モノのむこうにも神秘的なものや未知のものを求める人間は、モノに象徴的な観念やイメージを託すのだ。

(佐伯啓思『欲望』と資本主義』による。)

問一 二重傍線部 a、e について、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で書きなさい。

- a () (b) (c) ()
d () (e) () ()

問二 甲、乙に共通して当てはまる、「分けようとしても分けることのできないくらい、密接な関係にあること。」という意味を表す三字の熟語を書きなさい。

() ()

問三 A、B、Cに当てはまる語の組み合わせとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア A Ⅱ第一に B Ⅱただし C Ⅱ第二に
イ A Ⅱまず B Ⅱさらに C Ⅱさらに
ウ A Ⅱ一方 B Ⅱ他方 C Ⅱところが
エ A Ⅱところで B Ⅱまた C Ⅱだから
() ()

問四 傍線部①「こうした議論」とあるが、この「議論」の具体的な内容として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア あるモノを多くの人が欲しがれば、そこに競争が発生するのは当然であり、場合によっては闘争すら発生することが予想されるという考え方。

イ 「欲望」にはあらかじめ格別の根拠があるわけではなく、対象との距離によってかき立てられるという「欲望」の性質こそが重要だという考え方。

ウ 人間には互いに社会的な優越を競い合うという避けられない性質があつて、「欲望」ですらそのような性質と無縁ではないという考え方。

エ 「欲望」は単に対象を手に入れるという個人の満足ということではなく、「欲望」の充足が社会的優越といった競争と切り離せないという考え方。

() ()

問五 傍線部②「モノの価値の本質」とあるが、筆者は「モノの価値」の「本質」を規定するのは何だと述べているか。文章中から十八字の語句を抜き出して書きなさい。

() ()

問六 傍線部③「いま、この考えにアナロジーさせていえば、ここでいう『欲望』は、この『限界』概念なのである。」とあるが、これは「欲望」がどのようなものかということを示しているか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「欲望」は、日常的な必要性和その充足という次元を超えたところに存在する価値を追い求めるものだということ。

イ 「欲望」は、対象によるある一定の満足感を経験した後に初めて実感できるものだということ。

ウ 「欲望」には限界というものがなく、常に無限に拡張し、フロンテ
イアを広げていくという性質があるということ。

エ 「欲望」には一種の「ない物ねだり」の側面があり、人は目の前に
存在しないものに強くひかれるものだという事。

() ()

問七

傍線部④「そうすると、われわれは、実は、何かあるモノそのものを
求めているのかどうかもあやしくなってくる。」とあるが、この傍線部
④の前後の部分で、人間の「モノ」に対する「欲望」の特徴を筆者がど
のように説明しているかを次のようにまとめた。これに関して、後の(1)
(3)の問いに答えなさい。

・人間は常に意味を求め、**I**を生みだす動物である。

←そして

・人間は「モノ」の中にも意味や**I**を求める。

* * *

・また人間は、**II**や未知なものにひかれる。

←そして

・人間は「モノ」のむこうにも**II**や未知なものを求める。

* * *

・つまり人間は「モノ」そのものを求めるといふより、「モノ」の背後
にある何かを求めていくことになる。

→こうして「モノ」に対する人間の欲望は、たえず**III**という性質
を帯びることになる。

(1) 二つの**I**に共通して当てはまる二字熟語を、文章中から抜き

出して書きなさい。

() () ()

(2) 二つの**II**に共通して当てはまる六字の語句を、文章中から抜
き出して書きなさい。

() ()

(3) **III**に当てはまる言葉を、この文章の論旨から判断して十字以
上十五字以内で書きなさい。

() ()

問八

この文章で筆者が中心的に述べようとしていることとして最も適切
なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「欲望」の充足と社会的な優位性とのつながりについて。

イ 「モノ」がもっている社会的なイメージと「モノ」の価値について。

ウ 人間の「欲望」の性質と、その「欲望」が発生する根拠について。

エ 人間の「欲望」と人間が生み出した科学や芸術、技術との関係につ
いて。

() ()